

原発事故による災害を乗り越えて開校した学校

楡葉町立楡葉中学校・楡葉町立楡葉北小学校・楡葉町立楡葉南小学校

福島県双葉郡楡葉町

設計・監理 佐藤総合計画
施工 フジタ



上/学校の記憶と情報を発信するエントランスホール 左下/2階普通教室前のオープンスペース 中下/学校の交流の中心となる多目的ホール 右下/互いの様子が感じられるアリーナと2階卓球練習場



学校全体構成が直感的に分かるグラウンドを取り囲む施設配置

設計主旨

ー 原発災害を乗り越えた建設プロセス

この学校を語るにはまず、震災で被災した他の学校とは異なるこのプロジェクト特有の建設プロセスに触れなければならない。福島第一原発から南に約12kmに位置する楡葉中学校は、震災前の2010年9月に着工し、震災当日は1階立上り打設中に被災、その後警戒区域となった。2012年8月の避難指示解除準備区域になるまでの1年半現場には一切立ち入れず、その後9月から被災状況調査、除染、復旧工事を経て2014年4月に工事再開し、翌年度に予定されていた避難指示解除による帰町を見込んで2015年2月に当初工事を完成させた。

しかし、避難指示解除されるも生活環境が整わず学校再開が2017年4月に延期され、その上、新校舎で2校の小学校も一緒に学ぶこととなり、校舎の一部を小学校のための改修設計と工事が行われるという、おそらくこの学校だけが経験した建設プロセスである。

ー 町の頂にあるみんなの学び舎

町の中心部の高台にある町唯一の中学校の現地建て替えである。グラウンドを取り囲むように既存の構内通路に面して校舎棟、地域開放施設である既存武道館に隣接して体育館を配置した。

校舎棟は、3つのテラスを設けることで学年ごとの「家」のようなまとまりをつくり、テラス越しに互いの雰囲気を感じられる構成とした。2階床にはPCa床版を採用し階高を抑え、屋根は町産杉集成材による架構とし明るく広がりのある「共に学び家」らしさを目指した。体育館は、マンサード形の屋根とし、ステージ上の妻面を開口とすることで夜間はそこから光が漏れる。昼も夜も幹線道路である6号線から見えるまちのランドマークを目指した。そして、校舎棟と体育館を結ぶようにランチルームとしても利用できる多目的ホールを配置した。多目的ホールは、間仕切りを開けることで音楽室と一体利用ができ、学年集会や発表会も行えることができる学校の中心となる空間とした。

ー 未来を担う子どもたちを育む学び舎

今、思い返せば二度とあの現場に行くことはできないだろうと失望感を味わったあの日から、関係者の熱い思いと努力で工事再開に漕ぎ着け、設計から7年半かけてようやく今春開校できた。私は、2017年4月6日の開校式で嬉しそうに校内を散策したり、友達と談笑する子どもたちを見た時、6年間も仮設校舎で過ごした子どもたちが新校舎を誇りに思い、「一緒にこの学校で勉強しようよ」とまだ町外に住む友達を誘い、一家族でも多くの帰町が進むことを願った。

そして、この学び舎が福島、楡葉の未来を担う子どもたちを育む場となることを今も祈っている。

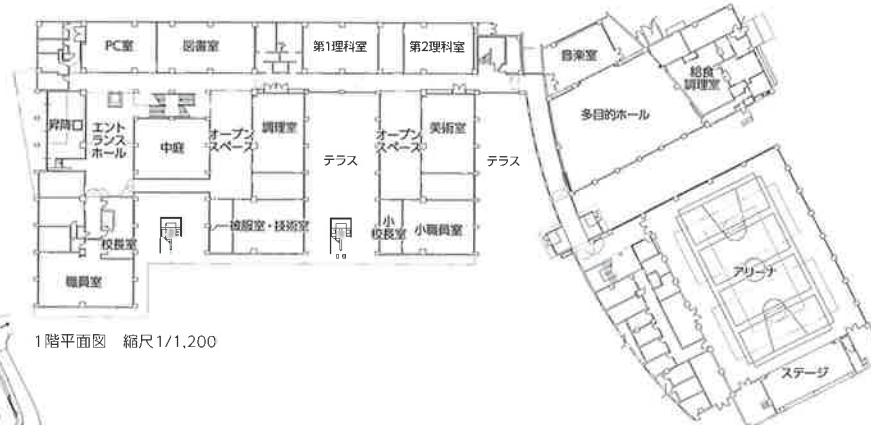
(前見文武/佐藤総合計画)



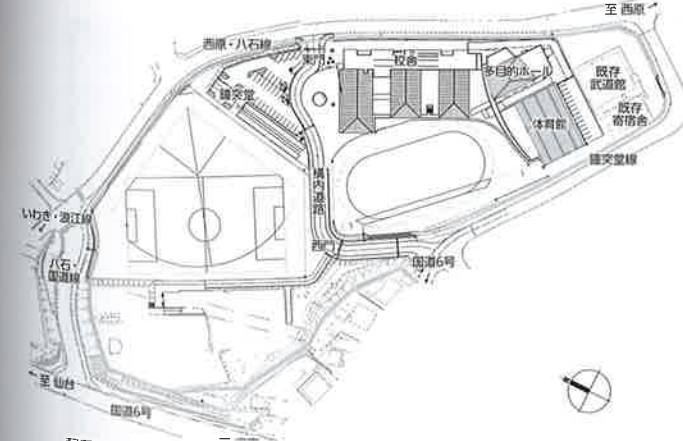
前見 文武……まへみ ふみたけ
1970年宮城県生まれ。1994年日本大学生産工学部建築工学科卒業。2003年佐藤総合計画入社。現在、同社東北事務所副所長



学年ごとの「家」を目指した校舎棟の構成。1階が特別教室、2階は普通教室



1階平面図 縮尺1/1,200



配置図 縮尺1/4,000

原発災害を乗り越えた建設プロセス

	H21年度 2009	H22年度 2010	H23年度 2011	H24年度 2012	H25年度 2013	H26年度 2014	H27年度 2015	H28年度 2016	H29年度 2017
楡葉町		3/11発災	警戒区域	避難指示解除準備区域(8月)			避難指示解除(9月)		
学校						学校検討委員会(5月~8月)	いわき仮設校舎閉止	開校(4/6)	
設計(AXS)	9/18	8/31							
改修工事		施工(9/17)	工事中止通知		工事再開通知(5月)	再開	完成(2/27)		
出資形態変更 調査(AXS)				9/24	11/30				
除染作業 (環境省)									
災害復旧						9/10	3/28		
改修設計 (AXS)								6/24	10/31
改修工事								11/14	2/28

楡葉町立楡葉中学校・楡葉町立楡葉北小学校・楡葉町立楡葉南小学校 データ

所在地 福島県双葉郡楡葉町北田字鐘突堂2-1
主要用途 学校
建築主 楡葉町
設計・監理 佐藤総合計画
担当/建築: 西村裕之、前見文武 構造: 桑原賢司、
楡垣進司 設備: 内沢拓尚、渡邊 森
監理: (建築) 前見文武、箭内正貴 (構造) 桑原賢司、
楡垣進司 (設備) 内沢拓尚、渡邊 森
施工 フジタ 担当/松本仁晴、工藤克己

【建築概要】

敷地面積 39,389.00㎡
延床面積 6,370.26㎡
構造規模 RC造(小屋根 木造) 地上2階
設計期間 2009年9月~2010年8月
工事期間 2010年9月~2011年12月(当初工期。東日本大震災により2011年3月中断)
2014年4月~2015年2月(再開工期)
2016年11月~2017年2月(改修工期)

協力会社

生コンクリート納入	藤田商事
屋根工事	元日ビューティ工業
ドアエンジン	ナブテスコ
自動ドア・ステンレス製建具工事	ナブコシステム
金属工事	メタル・システム
金属製建具工事	三和シャッター工業
アリーナ床工事	三洋工業東北システム
UB枠・カウンター	カイダー・ベースボード工業
空調設備機器納入	ヤマケンマシナリー
フェンス	朝日スチール工業

撮影/近代建築社(根本健太郎)